

## 女子の大学附属校に関する実証的研究

— A女子大学学園を事例として —

大阪大学大学院 肥和野 佳子

## 1. はじめに

近年、女性のあらゆる領域への社会的進出が急速なテンポで世界的に高まっており、女性と教育のかかわり方はとりわけ重要なものとなってきている。戦後高等教育が男女平等に開かれたとはいえ、しかし現在高等教育機関へ進学する女子の5分の4は、女子短大か女子大学であり、実質的に大多数の女子は女子向けの受け皿に構造的に吸収されているのが実状である。これらの女子短大や女子大学は附属校を併設しているものが多く、短大、大学附属校は女子の進学コースの一形態として一定の人気を得ている。こうした附属校での一貫教育は女子の人間形成やキャリア形成にどのような影響を与えるのであろうか。そしてこうした附属校へ入学するということは現代の女性にとってどのような意味をもつのであろうか。そこで幼稚園から大学までの組織をもつA女子大学学園を事例としてとりあげ、卒業生に対する調査から実証的分析を行ない上記のことを明かにしたい。

## 2. A女子大学学園について (略)

## 3. 調査の方法

## 質問紙調査 (郵送法)

調査期日 S. 58/5月~6月  
 調査対象 S. 46年卒~50年卒  
 (30才~35才)  
 発送部数 1531  
 有効回収部数 790  
 回収率 51.6%

## インタビュー調査

調査期日 S. 58/8月~9月  
 調査対象 S. 46年卒~50年卒  
 但し東京・大阪在住者  
 依頼数 49  
 承諾を得た数 36 (73.5%)

本調査は小学校からの入学者、中学校から、高校から、大学からというふうな、入学時期によるグループ別比較を中心としており、大学グループは附属校での一貫教育を受けていないコントロールグループとしての意味をもっている。調査対象者は卒業生名簿から対象年度にあたる附属校出身者の全数と大学からの外部入学者の5分の1を無作為に抽出した。

## 入学時期によるグループ別分類

小学校グループ	162人	20.5%
中学校グループ	161	20.4
高校グループ	177	22.4
大学グループ		
公立共学	211	26.7
公立女子校	45	5.7
私立共学	5	4.3
私立女子校	29	/
	790人	100%

## 4. 結果

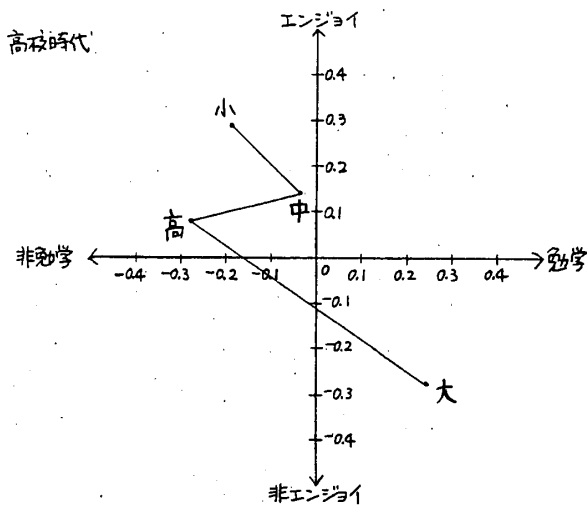
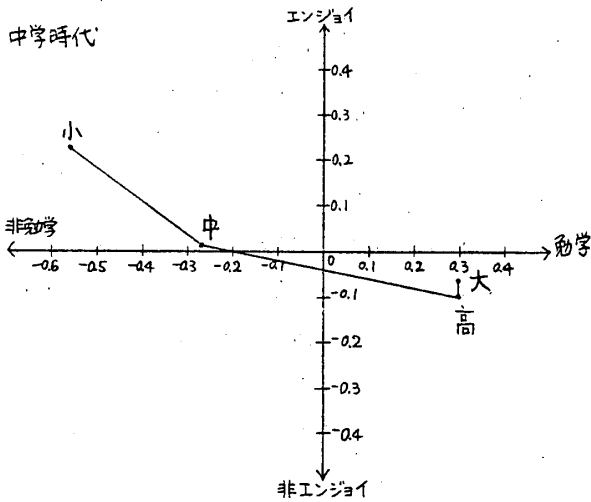
## (1) 出身階層 小&gt;中・高&gt;大

父職が専門・管理職の割合は小学校グループで最も高く、それに中・高グループが続き、大学グループが最も低い。小学校グループでは自営業の割合が高く、大学グループでは公務員の割合が高い。母職についてはグループ間で差は小さいが、専門・管理職は小学校グループでやや多く農業・技能・販売・サービス職は大学グループでやや多くなっている。

父学歴、母学歴については、小学校グループの両親の学歴が最も高く、それに中・高グループが続き、大学グループが最も低くなっている。

(2) 学業成績 高校入学時 高>中>小  
 高校3年時 中>高>小  
 高校グループは附高入学直後の学力テストの成績は最も良いが、その後の学業成績はさほどふるわず高3時では中学グループに劣る。幼稚園・小学校グループの学業成績は最も低く、成績の分布の幅が大きいことを考慮しても、成績優秀者はごく一部であり、平均以下の成績の者が多い。

(3) 学校適応 (中学時代・高校時代)  
 附属グループは勉学にあまりコミットせず学校生活をエンジョイしている。非附属グループは勉学に対するコミットメントの程度が高く学校生活をあまりエンジョイしない。(図参照)



(4) 大学卒業後の状況

就業状況を初職、26歳時、30歳時、現職の4時点で職種、就業形態、就業員規模について入学時期によるグループ別に比較を行ない、その結果おおまかなグループ別の特徴がえられた。(詳細口答)

(5) タイプ別分類

- 現職ありー職業役割重視ータイプ1
- ＼家庭役割重視ータイプ2
- 現職なしー職業役割重視ータイプ3
- ＼家庭役割重視ータイプ4

大学グループの方が附属グループよりタイプ1・タイプ3の割合がたかい。

両親の学歴と父職はタイプ間で差がないが、母職については母親が有職であった人の割合はタイプ1・タイプ2で高い。

人格特性についてみると(表 当日)、何かやるときには人の意見を参考にして決め、あまり無理をせず気楽にのんびりやり、グループのリーダーは他人にまかせ、競争よりもまわりの人と仲良くするのが大切と考える傾向のある人は家庭役割重視であることがわかる。人格特性を入学時期によるグループ別で比較してみると、自律、リーダー性では有意差がないが、競争観をきくところでは、大>高>中>小の順で「人と競争することは自分をみがくためにも意味のあることである」と考えており、さらに性別観では、大>中>小・高の順で「女性も職業をもって自立した方がよい」と考えていることがわかる。

さらに、「もし娘がいれば同じ附属校に入れたと思う」という項目についてみると、「よくあてはまる」と答えた人の割合はタイプ1で低くタイプ4で高い。無職で家庭役割を重視するタイプの女性が、娘をA女子大附属へ入れたと思う傾向がある。

6. まとめと考察 (当日 口答)